

レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー

アイサ・ホクソン パブリック・トーク

「マージナルな身体と国境を超えるエンターテイメント」

□ 開催日時：2014年10月28日(火) 19:00-20:30 □ 開催場所：森下スタジオ

本パブリックトークでは、アイサ・ホクソン氏の過去の作品について解説していただくとともに、ヴィジティング・フェローでのリサーチのテーマである「国境を超えるエンターテイメントの策略」について、その構想をプレゼンテーションしていただいた。

### 《はじめに》

アイサ・ホクソン：

こんにちは。本日はパブリックトークにお越し下さりありがとうございます。初めに私の紹介をしたいと思います。まずは、これまでの私の作品の映像をご覧いただきたいと思っています。

『Stainless Borders: Deconstructing Architecture of Control』というタイトルの作品で、都市空間の中でポールダンスやグラフィティ等の要素を取り入れたパフォーマンスです。

(映像：『Stainless Borders: Deconstructing Architecture of Control』)

2009年にフィリピンで発表したパフォーマンスで、その後、ベルギーのシント＝ニクラス(Sint-Niklaas)という街のコンテンポラリーアートのフェスティバルに招待されました。街を占拠するように展開されたフェスティバルの中で、私は街に介入するというアプローチで作品を提示しました。ストリップクラブのパフォーマンスというイメージの強いポールダンスが、エクササイズとしてフィットネスクラブで取り入れられた過渡期でもあり、そのポールダンスを公共空間に持ち出しました。

次は『Death of the Pole Dancer』というタイトルの作品です。2011年にイン・トランジット(In Transit)というベルリンのフェスティバルから委嘱された作品です。この作品では物の見方をテーマとし、自分が見ている物を他者はどのように見ているのか、そして、パフォーマンスが意味するものは何かを問う作品です。

(映像：『Death of the Pole Dancer』)

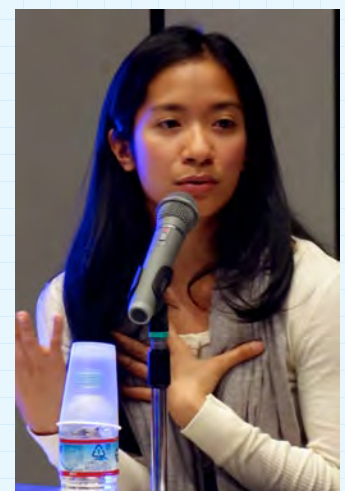
この作品は25分のパフォーマンスですが、そのパフォーマンスの終了後も、私は床に横たわり続けました。また、最初の10分間にポールを設置し、その設置する行為もパフォーマンスの一部としたことが重要でした。

次は2013年に初演した『Macho Dancer』という作品です。女性である私がマッチョ・ダンスをするソロ・パフォーマンスです。フィリピンではマッチョ・ダンスは若い男性がストリップクラブで行うパフォーマンスで、主に観客はゲイの男性と女性です。その中から約10分の映像をお見せします。

(映像：『Macho Dancer』)

全体で約45分ぐらいの作品です。将来、日本で上演できることを楽しみにしています。

今回の滞在では、次の新作のために「国境を超えたエンターテイメントの策略：何が上演され、誰が上演し、誰が観ているのか?」というテーマで、リサーチをしています。そして、フィリピン人の男性、女性のエンターテイナーについて調べています。日本では、ジャパユキとして知られている人たちで、日本のホステスクラブで働いています。2011年に日本に初めて来たときに、日本とフィリピンの関係は何かと考えました。そして、フィリピン人のエンターテイナーが、その関係性に深く関わっていることを知りました。それから、その関係性から何を明らかにすることをできるかを考え始めました。例えば、それらを取り巻く環境はどのようなものか、また、どのようなことが表明されているのか。さらに、日本の文脈に適応したフィリピン人のアイデンティティの雑種性に興味を持ちました。学術的な研究の中でこの分野を取り上げた論文もありますが、どのような労働者が働いているのか、また、エンターテイナーがどのようにエンターテイメントを提供しているのかについては、具体的に言及されていません。そこで、どのような戦略で、どのように取引が行われて



アイサ・ホクソン

いるのか、また、どのようなパフォーマンスが行われ、どのようなダンス、音楽が取り入れられているのか。さらに、パフォーマーと観客の間には、どのような関係が構築されているのかを探究したいと思いました。そして、最初の目的はその現場での体験を具現化することで、どのようなパフォーマンスが行われているのかを学び、パフォーマーと観客の間でどのような会話が行われているのかを知ることです。作品のタイトルは『HOST』です。リサーチでは数多くの材料を見つけることになると思いますが、それらが全て作品になる訳ではありません。作品はリサーチでの様々な体験から影響を受けますが、最終的には、作品自身に生命が宿ることを願っています。

(以下、質疑応答、略)



パブリック・トークの会場

## ヴィジティング・フェロー 滞在概要

アイサ・ホクソン フィリピン  
アーティスト

2014年10月13日(月) - 11月27日(木) 滞在

テーマ：国境を越えたエンターテインメントの策略：何が上演され、誰が上演し、誰が観ているのか？

内容：国境を越えたエンターテインメントをテーマに、フィリピン系日本人または日本に居住するフィリピン人のエンターテイナーについて、その社会的、文化的、歴史的な背景や労働環境、エンターテイナーとしてのアプローチに関するリサーチを行った。滞在中、フィリピン人のエンターテイナー、向島の花街や秋葉原のメイドカフェ等を訪問。また、日本舞踊の稽古に参加した。そして、日本におけるエンターテインメント業界の「女性らしさ」を表す様々なパフォーマンスを身体表現として考察した。

[ショーイング：ワーク・イン・プログレス]

『HOST - fantasy and reality』

開催日時：2014年11月25日(火) 開演 19:00

開催場所：森下スタジオ

内容：「女性の労働者はパフォーマンスで何を明らかにし、何を秘密にしているのだろうか。労働者として女性らしさを表現しているのであれば、そのパフォーマンスにはいつ終わりがあり、いつ現実が始まるのだろうか」、これらの問いをもとに、ホステスが従事するエンターテインメント業界の「女性らしさ」を表す様々なパフォーマンスを身体表現として考察し、創作過程の一つとして提示した。

[滞在後の展開]

2014年12月、ベルギーのワークスペース・ブリュッセル、2015年2月、TPAMで『HOST - fantasy and reality』のワークインプログレスを発表。また、2015年、スイス、ドイツで同作品を発表する予定。



“エンターテインメント”をテーマに、ポールダンスやマッチョダンス等、社会の主流とは一定の距離のある環境下に置かれたダンスの身体を取り上げて作品を創作。

2010年、都市の公共空間にある旗や標識のポールを用いてポールダンスを披露する作品を発表。その後、セクシャリティ、暴力、権力等をテーマにポールダンスを踊る作品『Death of the Pole Dancer』(2011)や、ナイトクラブ等で男性が男性の観客にむけて踊るパフォーマンスを女性の身体で体現する作品『Macho Dancer』(2013)を発表し、世界的に注目を集める。2011年、東京都文化発信プロジェクトの国際招聘プログラムに参加。